

アジア太平洋地域における貿易構造の変化 —平成22年度行政対応特別研究の成果紹介—

国際領域主任研究官 井上 荘太郎

1. はじめに

日本、米国、中国、韓国、ASEAN 諸国、オセアニアなどからなるアジア太平洋地域では、現在、「日中韓 FTA」「ASEAN+3」「ASEAN+6」「アジア太平洋自由貿易圏 (FTAAP)」「環太平洋連携協定 (TPP)」などのいくつかの広域経済連携構想が打ち出されている。この状況下において、地域内諸国の貿易構造や貿易戦略を整理・把握することの重要性は一層高まっている。以下では、World Trade Atlas のデータ整理から見たアジア太平洋地域の貿易構造の動向を簡単に紹介する。

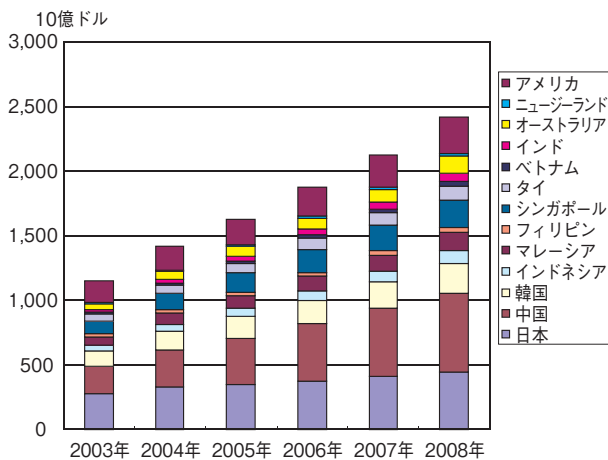
2. アジア太平洋地域の貿易の全体的動向

(1) アジア太平洋地域の貿易の拡大

アジア太平洋地域の輸出総額は5年間で2倍以上に増加している(2003～2008年)。そして、その内訳を観察すると、最も重要なのは中国のシェアの増大である(第1図)。

(2) 中国の加工貿易の拡大と日本のシェア低下

2国間の貿易の相対的な結合関係を示した貿易結



第1図 アジア太平洋諸国間の輸出額の推移

資料：参考文献第1章第1-5 (World Trade Atlas から作成)。
注：各国の輸出額は当該国から他のアジア太平洋諸国への輸出合計額。

合度(第1表)に見られるように、現在のアジア太平洋地域の貿易は日米 ASEAN に中国を加えた貿易グループが中心となっている。

中国からの輸出では、農産物の輸出のシェアが減少し、一方、従来から競争力のある「皮革・繊維」に加え、「鉄鋼・金属」や「機械・電機」の輸出競争力が増加している(第2図)。これは、中国では労働集約的な軽工業や、土地利用型の農業も成長はしているものの、それらの部門を凌駕する勢いで資本集約的な重工業あるいは先端的な工業部門が拡大していることによる。そして、工業原料となる「鉱物・資源」の輸入も、大幅に拡大している。輸出目的で輸入された原料の関税等の減免が実施されていること(「加工貿易」政策)が、こうした貿易構造の変化をさらに強めている。

アジア太平洋地域におけるわが国の貿易額も増加しているが、中国をはじめとする他国の伸びが大きいために、輸出、輸入ともに、シェアを低下させてきている。

第1表 アジア太平洋諸国間における貿易結合度(2008年)

	アメリカ	日本	中国	韓国	ASEAN	インド	オーストラリア	ニュージーランド
アメリカ	0.00	1.44	1.31	1.24	1.45	1.28	1.57	0.99
日本	1.15	0.00	1.43	1.31	1.35	0.34	0.72	0.55
中国	1.61	1.21	0.00	1.11	1.05	1.05	0.74	0.42
韓国	0.78	0.77	2.11	0.00	1.12	0.77	0.48	0.40
ASEAN	0.93	1.50	1.16	0.94	0.00	1.56	1.75	1.07
インド	1.40	0.39	0.92	0.61	1.84	0.00	0.47	0.37
オーストラリア	0.28	1.78	1.17	1.10	0.87	1.78	0.00	6.60
ニュージーランド	0.62	0.82	0.53	0.52	1.01	0.40	7.49	0.00

資料：参考文献第1章第1-4図 (World Trade Atlas から作成)。

注(1) 2008年の貿易データとして、2007、08、09年の3年平均値。

(2) ASEAN はインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの集計値。

(3) 貿易結合度は次の式で示される。

$$I_{ij} = (X_{ij}/X_i) / (M_j/M_A)$$

I_{ij} は i 国の輸出の j 国との貿易結合度、 X_{ij} は i 国から j 国への輸出額、 X_i は i 国のアジア太平洋諸国への輸出総額、 M_j は j 国のアジア太平洋諸国からの輸入総額、 M_A はアジア太平洋諸国間の輸入(輸出)総額。

(4) 緑色に塗ったセルは輸出、輸入量結合度とも1以上の2国関係を表す。

3. アジア太平洋地域の農産物貿易

(1) 農産物輸出の動向

アジア太平洋諸国の農林水産物の輸出は、2003年から2008年にかけて、おおむね倍増している。特に注目されるのは、「油糧種子・油脂」の輸出額の増加である。「油糧種子・油脂」の輸出を大きく伸ばしている国は、米国(大豆・大豆油)、マレーシア(パーム油)、インドネシア(パーム油)である。次に輸出の増加が顕著なのは「その他農産物」に分類される品目である。コーヒー、茶、その他調整品などがここに含まれており、国別で見るとインド、ASEAN諸国、韓国、中国などの増加が大きい。

その他、品目ごとに、輸出増加の大きな国を列挙すると、「水産物」ではタイ、中国、「穀物」では米国、豪州、タイ、「野菜・果実」では中国、タイ、「肉類、酪農品」では、豪州、ニュージーランド、「砂糖」ではタイ、「林産物」では中国、マレーシアがそれぞれシェアを増加させている。

(2) 農産物輸入の動向

アジア太平洋諸国の農産物の輸入については、(1)日本および中国、韓国、米国の輸入額が大きく、とりわけ日本の輸入額が大きいこと、および(2)近年の中国の急増が顕著であるという2点が注目される(第3図)。

中国の農産物輸入は2003年から2008年にかけて3倍弱の増加を示している。そのため、現在では、中国の農産物の輸出額と輸入額は均衡した水準に近づいており、この傾向が続けば、今後、輸入額が輸

出額を上回ることになる。また、中国の農水産物輸入の内訳では、所得向上による食生活の変化を反映して、特に「油糧種子・油脂」、「肉類」、「穀物」といった品目の輸入額の増加が大きい。

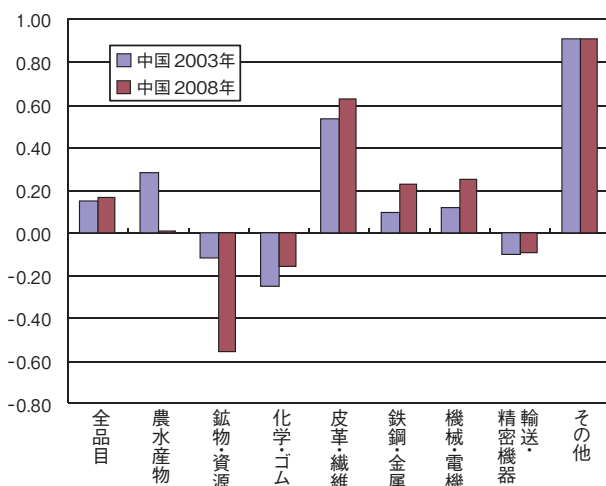
なお、その他の諸国の状況を見ると、インドでは「油糧種子・油脂」の増加が際立って大きいこと、また、ASEAN諸国および豪州では、コーヒー、茶等を含む「その他農産物」の輸入増加がそれぞれ大きい。

4. まとめ

以上、アジア太平洋地域では、域内各国間の貿易が急速に拡大しており、その中で中国の動向が重要な役割を果たしている。一方、日本の相対的地位の低下が顕著である。

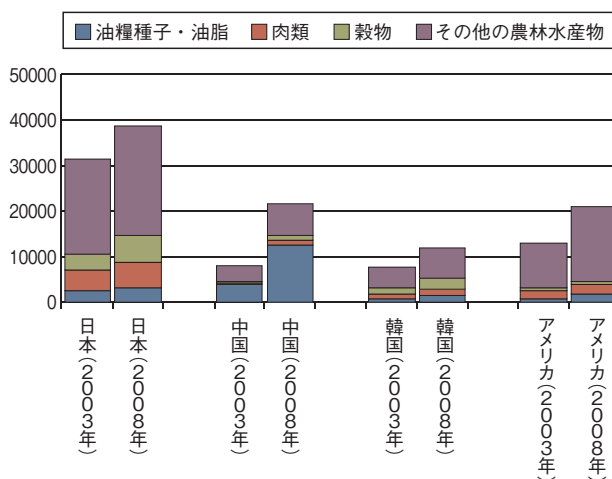
農林水産物の貿易では、わが国は、現在は大きなシェアを占めているが、ここでも中国の急拡大が注目される。その他、域内各国の経済成長にともなって、様々な品目の動向に変化がある。その中でも、アメリカや中国はもちろん、特にインドやASEAN諸国における「油糧種子・油脂」の動向が注目される場所である。

以上は、平成22年度行政対応特別研究「アジア太平洋諸国における経済連携に関連した貿易構造等の分析」で行った分析の一部である。この研究では、全体的な貿易動向に加えて、2国間ベースの貿易構造の分析を実施したほか、各国の貿易戦略を分析するために、ASEAN+1型のFTA協定における上位センシティブ品目の設定の状況の分析も実施している。



第2図 中国のアジア太平洋諸国に対する競争力指数の変化 (2003年、2008年)

資料：参考文献第1章第1-10図 (World Trade Atlas から作成)。
注 (1) 各国の輸出額は当該国から他のアジア太平洋諸国への輸出合計額 (3カ年平均値)。
(2) 競争力指数 = (輸出額 - 輸入額) / (輸出額 + 輸入額)。



第3図 主要なアジア太平洋諸国の農林水産物輸入の変化 (2003年、2008年)

資料：World Trade Atlas から作成。
注：各国の輸入額は当該国から他のアジア太平洋諸国からの輸入合計額 (3カ年平均値)。

【参考文献】

「アジア太平洋地域の貿易構造と ASEAN + 1 型 FTA」, 農林水産政策研究所プロジェクト研究資料 (2011年3月刊行予定)